

南信州アルプスフォーラム

全体勉強会事業報告

【趣旨】

リニア駅及び周辺のインフラ整備に関する検討がいよいよ具体化しつつある昨今、地域住民の私たちは、それらをどのように整備しどのように利用するかを考えなければいけない時期を迎えています。

2017年の開業までに地域が目指すべき姿を考え皆で共有し、それに向けて今から行動に移していくことが、リニア開通後にこの地域が生き残っていく方策であると考えます。

リニア開通後のリニア駅を中心とした周辺地域とのネットワークをいかに構築するか、またそれに伴って、リニア駅の機能や役割には、何が必要かを考え、飯田下伊那の目指すべき地域の在り方を学ぶ勉強会と位置付けます。

【日時】 平成 27 年 11 月 10 日 火曜日 午後 6 時 30 分から

【場所】 シルクホテル

【参加人数】 52 名

【テーマ】

リニア時代に相応しい交通ネットワークと駅機能

— 駅と周辺地域（中心市街地含む）との有機的連携を考える —

【内容】

- ①講演会 「リニア時代に相応しい交通ネットワークと地域間連携」
- ②提案説明 「新駅の機能と役割について」
- ③全体討論 「飯田下伊那の地域間連携は、どうあるべきか」

【講師】

- ①加藤 博和（かとう・ひろかず）氏 名古屋大学大学院環境学研究科准教授
- ②新駅の機能と役割 新井 優（部会長）
- ③全体討論進行 中島 一夫（部会長）

【考察】

1、加藤先生講演

『飯田下伊那地域間連携を考える』 ～リニア駅&交通ネットワーク～

加藤先生からは具体的地域事例をもとに、飯田下伊那で出来るリニア中央新幹線駅の役割として、長野県北から県南下伊那までどのように連携をしていくかその為には、地位間連携がどうしても外せないと言った内容の事例を発表頂き、南信州アルプスフォーラムとして今後の活動指針を感じる事が出来た。

2、新井優さんより

『リニア駅の機能と枠割について』の提案

具体的な駅周辺含めたイメージ絵も踏まえて、駅を降りてからの地域間連携を考えるにあたって必要なキーワードとなる「セカンド door」、「サード door」の説明を頂き如何に、地域連携を考え単なる構造物等のハード面な物に頼るのではなくて施策を広角の視野で考えていかねばならないと言う話でした。私共南信州アルプスフォーラムとしてもその部分をもっと今後は掘下げていき、視察研究を重ねていかなければならないと感じました。

最後に、

全体を通じ加藤先生の御提示いただいた参考事例を踏まえた、地域2次交通を上手に使い連携を模索し価値のある内容の物を早急に研究テーマとして取り組んでいかなければならないと感じました。